

あかやま

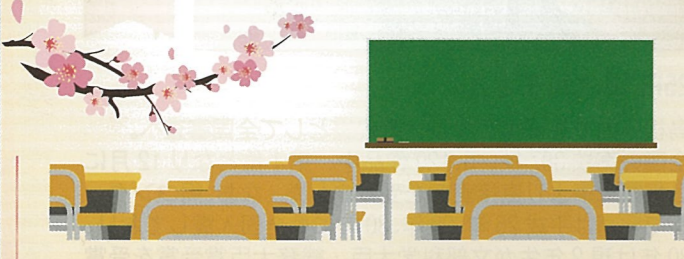
第 **305** 号
学校だより366号

担任から卒業生へ贈る言葉

3年学年主任 田中 伸洋

『卒業式前日の空っぽの教室を見ながら』

先日、皆さんが入学した日の「学年だより」を読み返しました。その中に、私はこんなことを書いています。「私が皆さんに求めていることを一つお話しします。それは『応援できる人になろう！ 応援される人になろう！』ということです。頑張っている人を素直に応援できる人になって欲しい。そして、周囲の人からも『あいつのためならぜひ応援してやりたい』と思われる人になって欲しい。そんな高校生活を送って欲しいと考えています。偉そうな事を書いたものですが、私は、皆さんが頑張ろうと思えるような学校づくりに少しでも貢献できたでしょうか。皆さんが互いを応援できるような雰囲気づくりができたでしょうか。3年生を送り出す時、いつも「もっと何かできたんじゃないか」という思いでいっぱいになります。これも、皆さんを送り出す寂しさのせいでしょうか。将来、皆さんが北高での3年間を振り返る時、それが意味あるものであったなら心から幸いに思います。



2R担任 佐貫 仁美

『新しい世界へ飛び出すみなさんへ』

卒業おめでとうございます。
旅立ちに向けて、大好きな「すみっこぐらし」のお話をします。彼らは、その名の通り隅っこが大好きで、できるだけひっそりと暮らしたいと思っています。それは、教室に入ると後ろや隣の席から座っていくような日本人の習性を表しており、そんなところが多くの人の共感と呼んだとも言われています。
ある日、娘と映画を観に行ったときのこと。いつもは隅っこで落ち着いている彼らですが、映画の中ではいきなり絵本の中に飛び出していき、なりたくもない主人公になってしまいます。行きたくもない鬼退治に行ったり、降りかかる問題に自ら立ち向かわなければならず、先頭に立ってまわりを動かさないといけません。その中で、初めて出会った、誰かもわからない“ひよこ”を一生懸命に助けようとしています。「誰かのために一生懸命になる」、シンプルだけどとても素敵なことだと思いませんか。予想以上の感動の反面、結末は意外で、特に子供にとっては残酷なものでした。厳しい「現実の壁」は想像以上でした。
さて、皆さんがこれから飛び出していく世界は、予期せぬことがいっぱい待ち受けていることでしょうか。ときには、自ら行動することを求められ、難題に直面することもあるでしょう。そんなとき、北高で学んだことやこれから学んでいく多くのことを、どうか自分のためだけでなく、「誰かのために、社会のために、一生懸命に活かせる」人であってほしいと思います。主人公は皆さん一人一人です。素敵なストーリーをまた聞かせてください。

1R担任 椿 昌夫

『自分の思い』

卒業おめでとうございます。みなさんとは3年間同じ学年で過ごしました。その中でいろいろなクラスに入っていく、個性豊かなみなさんと楽しく過ごすことができました。クラスが離れても、授業から離れても校内で会うたびにみなさんの方から話かけてくれて廊下で立ち話をよくしました。ありがとうございました。
最後に一言ということですが、私からは「自分が生かされていることを自覚する」です。自分が生きているのは、生活しているのは、受験できるのは、進学できるのは、就職できるのは、すべて周囲の環境が与えてくれているものだと自覚しないといけないと思います。それは、自然に対しても、あるいは自分を取り巻く家族、友人、クラス内の人、この学校内の人、もっと大きくなると松江の人、島根の人、日本人、などすべての人や生物やものに対してです。「あるのが当たり前」でなく、「あるのが難しい」、「貴重な物」だと思えば気持ちの持ち方も変わります。自分さえ良ければいい、などと自分中心の考えをしたり、今の自分が不幸なの（調子が悪い）はアレのせいだ、などと責任を転嫁したり、必要以上に他人に依存したりする考えは、自分で自分を不幸にしていく考えだと思えます。自分の生きる道を自分で責任持って歩んでいく、周囲の状況を確認しながら……この先、明るい人生にするかしないか、なるかならないかは自分の気持ちの持ち方一つで変わります。自分の個性は、世のため、他人（ひと）のため、に使うこそ個性です。卒業生に幸あれ。

3R担任 大國 晴吾

『49文字の贈る言葉』

「あ な た た ち
の ご お る は こ
こ じ や ない
ま だ お わ
り じ や な い た
い せ つ な こ
と は こ こ ろ の
な か に さ あ
あ ら た な せ
か い 」

ちょっとした工夫と、ほんの少しの努力でできるワクワク感を大切にしています。上の「49文字」もそのうちの一つです。もしそれが、自分だけでなく、ちょっとでも周囲の人を笑顔にできるとさらにステキですね。高校を卒業後、この先いろいろなことが待ち受けていると思いますが、自分なりの工夫を毎日の中に取り入れてみてください。
卒業生のみなさん、さあ横を向いて、「おめでとう！！」

4R担任 廣田 達也

『次のステージを、全力を尽くしたといえる場所に』

卒業おめでとうございます。いよいよ、高校3年間をともに過ごした友人たちと別れ、それぞれが新しいステージへと歩んでいくことになります。環境も、学びのスタイルもこれまでとは大きく変わってくると思います。
高校までの学習の多くは、試験に受かるため、資格をとるために「与えられ」、「鍛えられ」る作業だったと思います。それは決して悪いことではありませんし、今後、発展的な学習をしていくためには不可欠なものです。しかし、大学や社会に出るとその形式は一変し、自分から求めていかなければ完全に放置されることになります。つまり、何もしなければ何も身につかないまま、ただ時間だけが過ぎていってしまうのです。学びの自由が大きいぶん、自分の行動に対しては大きな責任を負うことになります。
高校や大学の講義の中だけで得られる知識はわずかなもので、あくまでも「きっかけ」に過ぎません。知識や考え方を本当に身につけるには、自ら積極的に学習することが不可欠です。そして重要なのは「理解したい」という生き生きとした感情をもって、知識や体験したことの意味を深く考え、探究する方法や問題解決の方法を身につけていくことだと思います。全力で頑張ってください。皆さんの次のステージが充実したものになることを心より祈っています。

6R担任 山田 忠幸

『本質を見極めよ』

新型コロナウイルスが猛威を奮っています。いま、どこに行ってもマスクを買えません。オイルショックの時に無くなったトイレットペーパーとかBSEの時に日本から消えた牛丼を思い出します。高校生がテレビを見なくなったと感じています。地デジが変わったときに各家庭のテレビのサイズが大きくなったのに、小さい画面のスマホと睨めっこする人が増えました。
「厳しさ」や「少しの間違い」が過剰に批判される世の中になりました。学校の先生方も優しくなったなあと感じています。世の中が確実に変化しています。良い方向に向かってはいるはずですが、情報が溢れすぎていて、ちょっと過剰反応かなとか、リスクを恐れすぎかなと感じます。すぐに、答えを出さずに、一回よく考えたら……と思うことがよくあります。アメリカではインフルが大流行して既に1万4千人以上が犠牲になっているようですがあまりニュースになりませんね。それから、「インスタばえ」。それって重要ですか？
価値観が多様化し、何が正しいのかを自分で判断しなければならぬ世の中になってきたと思います。そこで、最後のアドバイスです。「本質」を見極めましょう。例えば、掃除。掃除の本質は「綺麗にすること」です。「15分間ほうきで掃き続けること」ではありません。
これで、小学校から12年間の集団生活が終わりました。これからは、学校の枠にとらわれず、自分の思いのままに生きていけます。それは、とても楽しいことです。一方で、困ることもたくさんあります。その時に、物事の「本質」≠「目的」とか、「最も大切なこと」は何かを考えると、選ぶべき道が見えてくるはずです。部屋は綺麗になるまで掃除しましょう。
卒業おめでとうございます。人生を楽しんで！

5R担任 堀江 玲美

『ながらへば』

卒業といっても実感がわかない人も多いでしょう。忙しくて感慨にひたれず、一体何のための式かと首を傾げる人もいるでしょう。
私は今まで自分の卒業式ではほとんど泣きませんでした。高校でも引越しの事や受験結果ばかりが気になって、早く式が終わらないかと始終そわそわしていました。友達とお別れ会も湿っぽくならず、新天地へ旅立つ喜びで大はしゃぎした記憶があります。あの頃は卒業式を、卒業証書を受け取るためだけの時間だと思っていました。
式典とは人生に節目を与えるものだと、ようやく理解したのは大学卒業時です。
いよいよ学生生活が終わるという時に毎日が本当に忙しくなく、今日は昨日の延長でしかなく、楽しい思い出すら押し流される気がして悲しかった時です。卒業式という節目が、途切れない日々をちゃんと区切って、気持ちの切り替えを助けてくれました。忙殺される心の一つ支えができたような、過去を振り返るための目印ができたような、そんな感覚です。物事には必ず意味がありました。
今日が、皆さんにとってそういう日になることを願っています。卒業おめでとうございます。忙しくても体には気をつけて。



7R担任 繁澤 優子

“Light Tomorrow with Today!”

Congratulations on your graduation! The last two years that I spent with you was such an amazing time for me! All of you are so bright and inquisitive that I really enjoyed your company, and the journey to help you open the door to the future was very exciting, stimulating, and inspiring. Although it's so hard to say goodbye to you and I already miss you a lot, I will continue to be here for you and I'm really looking forward to listening to your new adventures.
As you take a step towards the future, I'm sure you will face a lot of difficulties. Sometimes you might feel as if you lost all your hope and wonder what you are living for. But while we're trying to do the best for others, we realize things about ourselves and while trying hard to lead a better life, we find deeper reasons why we live, because “suffering produces perseverance; perseverance, character; and character, hope (Romans 5:3-4)”. Therefore, when there are two paths before you, take a harder one and exert yourself to the utmost, so everything will benefit you in the end and the result will turn out to be much greater than you can ever imagine. I wish you all the best for your bright future! Thank you!

令和元年度 松江北高校「3年生を送る会」

令和2年1月21日(火)、島根県民会館大ホールにて、3年生を送る会を開催しました。

音楽系部活動の演奏、生徒会企画、運動部・文化部の発表を通して、1・2年生は、3年生に対する感謝の気持ち、労いの気持ちを伝えました。3年学年部教職員は劇を通して、贈る言葉を伝えました。最後に、スライドショーで3年間の思い出を振り返り、3年生は気持ち新たに、邁進していく決意をかためていました。生徒会のみなさん、企画・準備・運営と本当にお疲れさまでした。3年生のみんな「さあ、ひっくり返そう!!」



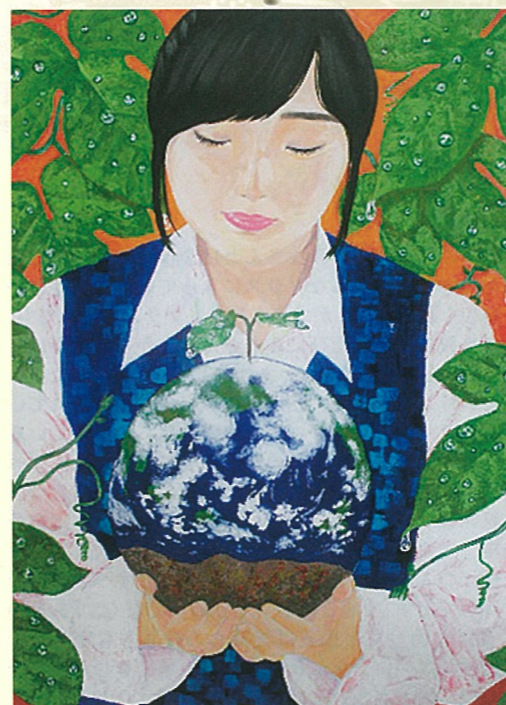
ウインターチャレンジを実施しました

1月27日から1月31日に第1体育館にて、運動部の生徒と希望者によりウインターチャレンジを実施しました。各部のトレーニングメニューを行いました。県総体総合優勝を合い言葉に、みんなで良い汗を流しました。頑張れ、北高!!



美術部全国入賞&美術部・書道部高総文祭出品決定

美術部の作品が島根県内で上位入賞し、県の代表として全国コンクールに出品されたところ、2作品が更に全国で上位入賞を果たしました。また、県高校美術展・高校書道展で優秀作品として認められた作品が今夏の全国高総文祭高知大会に出品が決定しました。結果と作品・作者は以下の通りです。



令和2年用全国国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール
国土緑化推進機構理事長賞

16R 熱田菜月さん 画題「私たちがから」

島根県内で優秀賞となり、県代表として全国審査へ。全国の高校生1,265作品中第6位、賞位では4番目となり、今年の5月末に島根県内の三瓶山で行われる全国植樹祭で直接表彰を受けることになりました。なお、同コンクールで北高は27年度の長野大会でも同賞を受賞しており、4年ぶり2回目の全国入賞となりました。



令和元年度全国明るい選挙ポスターコンクール
文部科学大臣賞・総務大臣賞

25R 川本莉子さん

島根県内で最優秀となり、県代表として全国審査へ。全国の高校387校、5,120作品中、第1位となり12月に島根県知事より直接表彰を受けました。なお、同コンクールで北高は平成26年、29年、30年にも全国入賞しており、30年は現2年生が文部科学大臣・総務大臣賞受賞を受けて、今年で2年連続同賞受賞となりました。



13R 新田真由さん
臨書「楽毅論」

10月の島根県高校書道展で150作品中、第2位となり、今夏に高知県で開催される全国高総文祭への出品が決定しました。強弱のはっきりした書体の特徴を見事につかみ、高い評価を受けました。

通者義善昭之東海属空華蕭我澤如奉應如草道光宇宙
賢者託心鄰國傾慕四海延頸思戴燕主仰望風聲二城
必從則王業隆矣雖淹留於兩邑乃致速於天下不幸之變
世所不面取於垂成時運固然者乃追之以威刻之以兵
赤路

令和2年度第44回
全国高等学校総合文化祭高知大会 書道部門出品決定



22R 山田侑実さん S50号油彩「望観」

12月の島根県高校美術展で439作品中上位5作品に選出され、今夏の高総文祭に出品が決定しました。昨年度はあと1歩で総文祭出場を逃しているだけに、嬉しい結果となりました。

令和2年度第44回
全国高等学校総合文化祭高知大会 美術・工芸部門出品決定